

九州アグロ・イノベーション開幕

輸送や収穫に威力 最新資材・機器をPR

「九州アグロ・イノベーション九州みどりの食料システムEXPO2024」が23日、福岡市のマリネットB館で開幕した。国が推進する「みどりの食料システム戦略」やスマート農業に関わる58ブースが出展。持続可能な農業に向け、最新の資材や機材をアピールした。24日まで。

▼9面参照

福岡市

日本能率協会が主催し、農水省が協力。九州経済連合会やJAGグループ福岡、九州大学などが後援する。2日

間、4000人の来場を見込む。資材大手の王子コンテナ(東京都中央区)

高めた最新の段ボール資材「ストコン」を展示。側面がやや内側に傾く「かたむき設計」

で耐圧強度を10%高めて輸送時に潰れにくくする一方、使用する紙の量を1割削減し、産地のコストダウンにつなげた。長野県のリンゴの他、九州ではJA鹿本のイチゴで採用される。組み立て機も合わせて披露した。

熊本県立大学や熊本高専、末松電子製作所(八代市)らで構成する「栗の収穫・運搬ロボットの開発コンソーシアム」は栗の収穫・運搬ロボットと、電動アシスト付き手押し収穫機の2種類の試作機を展示。特許を取得したゴム製の柔らかい収穫ブラシで、いが栗と栗の実を同時に、傷を付けずに収穫する。ロボットは平場の広い園地向けで、手押しは中山間でも使いやすい。末松謙一社長は「手押しは早くほしいとの声が多く、来年の収穫期までには発売を検討したい」と話す。



▲王子コンテナが提案する「ストコン」
▼いが栗も栗の実も合わせて挟み込む収穫機 (いずれも23日、福岡市で)

